

ふれあい通信

平成26年2月号



発行：国保坂下病院広報委員会 Tel 0573-75-3118

ホームページアドレス <http://www.sakashita-hp.jp/>

「ふれあい通信」は坂下病院ホームページでも御覧いただけます



(102 高齢社会の中で)

病院長 高山 哲夫

連載こくは四方山話

必要があつて、中津川市の将来の人口動態について調べました。今から25年後には団塊の世代が90歳に達し、中津川市の年代別人口では、90歳以上の方が最も多くなります。いわゆる逆ピラミッドの人口構成です。

現在、市内周辺地域で高齢化が顕著ですが、25年後には市内中心部にも広がり、高齢化率は33.8%を越えてしまいます。また、独居高齢者、高齢世帯数は、それぞれ10.4%、9%となります。興味あることには、隣接の恵那市に比べ、中津川市の方が高齢化の速度が早いことです。いずれにせよ、25年後には、二人で一人の高齢者を支える社会になります。

当然ながら、医療体制もそのような社会に合った体制を構築して行かなければなりません。高齢社会の医療は、坂下病院を見ればわかります。たかだか10年前に坂下病院が新築された時は、入院の皆さんは、

ホテルさながら食堂で食事を楽しんでおられました。でも、今は自立された方は自室で食事され、食堂利用の方の殆どが御自分で食事が食べられず介護されて食事をされる方となっています。

医療の内容も変わりました。30年前に私が赴任した頃は、胆石の治療は開腹手術が当たり前でした。それが腹腔鏡による手術となり、絶対手術が必要と考えられていた総胆管結石も内視鏡治療が主体となり、早ければ2日で退院も可能となつていきます。早期の食道がん、胃がん、大腸がんの治療も内視鏡で行われるようになりました。従来のように、臓器ごとがンを切除するのではなく、臓器を残しがんの部分だけ切り取る方法に変わったのです。そのため、各臓器の機能は損なわれることなく、また開腹しないのですから苦痛も少なくなります。将来はもっと高額、高性能な医療機器が普及し、診断能力も向上し、患者さんに負担がかからない医療が展開されるでしょう。

しかし、そのような高額医療機器は、医療経済的に都会の大病院に

設置されることが多くなります。そのため、おそらく若い方々は、現在よりもっと都会指向となるだろうと予測されます。では、この地域の医療はどうなるのか。地域の将来像から考えると、この地域の医療は高齢者の方々主体に展開されなければなりません。眼科、泌尿器科、整形外科患者さんが現在よりもっと増加することが予想され、その対策が必要です。また、外科は負担の少ない手術が増え、開腹手術は激減してくると考えられます。そうした開腹するような手術は、おそらく都会で行われるようになるでしょう。治療については、高齢のため治療拒否、治療の中止、治療困難といった例が増加すると思われます。そうした例では苦痛のない看取りを視野に入れた医療の展開が必要です。国の施策の中で、現在の医療は、急性期医療、亜急性期医療、慢性期医療と云うように分断されてしまっています。私個人的には、このような分け方には反対しています。病気が治る過程は、そんな風に単純に分けられるものではありません。若い方に比べ、ご高齢の方は良くなつて来たなと思つても、またすぐ悪化することもあるのです。

急性期医療が終わったからと、重急性期あるいは慢性期病院へ移ったら、また悪化し再度転院する。こんな風になったら大変です。

私の知っている香川県の三豊総合病院は、ベッド数500以上の総合病院ですが、地域の拠点病院として高度医療を行うと共に、老健を併設し、療養病棟、緩和ケア病棟も有しています。同じ病院の中ですから、急性期医療が終わってもよその医療機関へ転院する必要はありません。この地域では、まさにシームレスな地域包括医療・ケアが展開されています。

三豊病院同様、坂下病院も従来から地域包括医療・ケアに力を注いで来ました。将来予想される高齢社会に対応するためにも、中津川市全体の市民に不自由を感じさせない、素晴らしい地域包括医療・ケア体制が築かれればと願っています。



高山院長の「こくほ四方山話」が本になりました！

平成17年から、ふれあい通信に連載中の「国保四方山話」が、1冊の

本になりました。高山院長の、坂下病院における医療の記録、是非ご一読ください。

院内売店で
購入できます。



医師のひとりごと

副院長 近藤真治

新年明けましておめでとうございませう。いや、今はもう寒中お見舞い申し上げますか。いやいや、もうすぐ立春であり、春待ち遠しいこの頃いかがお過ごしでしょうか。午年の今年は、みなさん何でもうまくいくことを願っております。

最近ふと気が付いたことを一つ。患者さんの家族構成などを見てみると、お子さんたちが40歳台50歳台でも独身、独身と、以前より目立つようになりました。周りを見渡しても、確かに男も女も独りである輩が多いと思います。そこで少し調べてみました。人口統計資料集(2012年)によると、2010年の生涯未婚率(50歳で結婚経験のない人)は男性が20

・14%、女性は10.61%でした。2000年と2010年の調査を比べると、男性は7.5ポイント、女性は5ポイントも上昇しています。今後この数値がさらに高くなるのが予想されます。これは現在日本が抱えている少子化問題の直接的な原因にもなっています。20

10年の国勢調査では「35歳を過ぎて結婚できた男性はわずか3%、女性は2%」という結果が出ています。適齢期を過ぎると、結婚は絶望的のようです(ちよつと言い過ぎでしょうか)。女性の経済力の上昇、雇用問題で経済的に結婚が苦しい、離婚率の上昇などが原因として挙げられ、さらに結婚しなくても困らない、1人でも生きていける時代になったという要因が大きいようです。確かに生活ではコンビニなど大変便利になりました。昔は結婚しないと社会的に追い

やられることもありましたが、今は未婚が珍しくなくなり、結婚のメリットを感じられないの

でしょうか。合計特殊出生率は、日本では「1.4」前後でとても人口再生ができません。高齢化社会にあって、65歳以上の一人暮らしの高齢者も著増して、平成22(2010)年には男性約139万人、女性約341万人、高齢者人口に占める割合は男性11.1%、女性20.3%になったようです。

老いも若きも、独り者がここまで増えてしまい、特にまだ子孫繁栄ができる、人口再生可能な世代が結婚せずに独居しているのは何ともさみしいばかりか、危機的であります。以前は「核家族化」が問題となりましたが、今や家族すら構成しない、社会の中で最小単位の「個人生活化」がかなり進んでしまっています。小生も晩婚であり人のことは言えませんが、でもやはり若い人たちには出会いを積極的に求めてもらい、伴侶を見つけ、頑張つて子を産んでほしいと、年を取ったせいのか、つとに思うようになりました。



先月のイベント

与作とお通の



ふたりづれ

1月15日(水曜日)、坂下病院4階西食堂にて、レクリエー

ション活動の一環として、「与作とお通のふたりづれ」による演奏会が行われました。4階東病棟主催のレクリエーション活動でしたが、他病棟からの患者さんも多く訪れ、30人以上が集まる、大盛況の演奏会になりました。

「与作とお通」のお二人は、夫婦で還暦を過ぎてから、老健施設や病院、デイサービスなどにお邪魔して、演奏を聞いていただいています。40年以上趣味でサックスを吹いている、ベテランの「与作」と、一生懸命さがけがとりえの、三味線の「お通」のコンビでした。

患者さんの知っている歌も多く、皆さん懐かしそうに聞き入っていました。



看護部便り

看護部長 松本文枝

寒さが厳しい季節です。インフルエンザやノロウイルスの流行が報道されています。この地域でもインフルエンザA型B型の感染が認められています。咳エチケットや、外出時のマスク着用、こまめな手洗いが、効果の高い自己防衛策です。

さて、私たち看護職員の仕事の大部分は、患者さんの苦痛をできるだけ少なくすることです。ベッドの上での療養を余儀なくされるとき、看護・介護職の出番です。ベッドの上で快適に過ごせるよう、食事・排泄・着替えなど、患者さんに合わせたお世話をします。

先日、看護部では、「患者満足度調査」を入院患者さん対象に実施しました。患者さんから頂いたご意見を真摯に受け止め、質の高い看護ができるよう努めてまいります。



連載 四季の画

坂下病院 花暦

今月の花…(うめ)



ウメは、バラ科サクラ属の落葉高木。毎年2月から4月に、5枚の花弁のある1cmから3cmほどの花を、葉に先だつて咲かせる。花の色は白、またはピンクから赤。葉は互生で先がとがった卵形で、周囲が鋸歯状。「ウメ」の語源には諸説あるが、その中の一つは、中国語の「梅」(マイあるいはメイ)の転という説である。伝来当時の日本は、鼻音(鼻に抜ける音)の前に軽い鼻音を重ねていたとされ、「梅」を「ンメ」のように発音していた。これが「ムメ」のように表記され、そこから「ウメ」へ転訛したとされる。

江戸時代以降、花見といえは、もっぱらサクラであるが、奈良時代以前に「花」といえば、むしろ「ウメ」を指すことの方が多かったと言われる。

梅には三百種以上の品種があり、野梅系、紅梅系、豊後系に分類されている。



白梅



紅梅



蠟梅(ロウバイ)

季節の画を提供してくださる三浦貞夫さんは木曽郡南木曽町田立在住。現在もリハビリをしながら絵を描き続けており、その作品はリハビリ室前の廊下にも掲示しています。

職員募集！ 介護福祉士・ヘルパーさん

療養病棟及び一般病棟で勤務していただける方を募集しています。

清潔介助や環境整備が主な業務です。
60歳未満で、この仕事に関心がある方なら、どなたでも、性別は問いません。
勤務時間など相談に応じます。ご連絡をお待ちしています。

- ＊ なお、看護師、准看護師の募集も行っています。
- ＊ 坂下老人保健施設でも、看護師、准看護師、介護職員の募集を行っています。



連絡先：0573-75-3118（内線 210）

松本看護部長
古村看護副部長



☆ お 知 ら せ ☆

催し物	日 時 ・ 場 所	内 容
糖 尿 病 食 試 食 会	2 月 4 日（火） 2 月 1 8 日（火） 午 前 1 1 時 ～ 3 階 食 堂	予 約：坂下病院 栄養科（内 線 1 6 4） お 電 話 で お ね が い し ま す。 会 費：3 0 0 円（食 材 費）
糖 尿 病 教 室	2 0 1 4 年 4 月 1 2 日（土） 1 0 時 から 開 催 予 定 で す。	
ふ れ あ い 健 康 塾	未 定 で す。	

☆坂下病院各科診療表

診療状況により予約時間どおりには受診できない場合があります。予めご了承ください。
(平成 26 年 2 月現在) 予約変更などのお問合せは、平日午後 2 時以降に各科受付窓口へお願い致します。

診療科目		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	第一(予約)	高山	酒井	高山(午前)	高山(午前)	酒井
	第二(予約)		緒方【呼吸器】	伊藤	高塚	田口【呼吸器】午後
	第三(予約)	信太(午前)	村瀬	信太		高塚(午前)
	新患外来	酒井	高塚	告野	信太	高山
	午前内科		大野【神経内】第3			佐橋【神経内】第1.3
	午後診療特殊			井上【漢方】第2.4 13:00～ 青木【腎臓】隔週		渡邊【腎臓】隔週
	午後診療	高塚	高塚	告野	酒井	信太
外科	第一	柴田	保坂【血管外科】	高橋【血管外科】	高木	水野
	第二	近藤	近藤	高木	近藤	高木
整形	第一	小嶋【リウマチ】	小松	小澤	小松	小松
	第二	矢野	米田	矢野	矢野	山下
小児科		杉本	杉本	杉本	杉本	杉本
眼 科		木下 受付 11:00 まで	木下	木下 受付 11:00 まで	木下	木下
泌尿器科		渡邊		渡邊	山田 第1.3.5 青木 第2.4	深津
耳鼻咽喉科		小川	西村	清水	矢野原	稲川
皮膚科				伊能 第1.3.5 松本 第2.4		
脳神経外科					大須賀 14:00～	
婦人科					浅井 第1.3	萬羽(午前)